

昭和四十八年十二月招集

第四回館山市議定会定例会會議錄第一号

館山市議 会

目次

日時	一
場所	一
出席議員	一
欠席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	二
議事日程	二
開會	三
議長の報告	三
議案の配付	三
會議錄署名議員の指名	三
会期の決定	三
提案理由の説明	四
議案第五号	五
議案第六十七号	六
認定第一号ノ認定第七号	九
議案第六十八号ノ議案第八十号	九
休會	三四
延會	三四
本日の會議に付した事件	三三

（内容説明）

一、昭和四十八年十二月五日（水曜日）午前十時		
一、館山市役所議場		
二、出席議員 二十七名		
一 番 吉 田 勇治郎	二 番 林 豊	
三 番 流 山 源次郎	四 番 鈴 木 稔	
五 番 近 藤 好 雄	六 番 栗 原 一 雄	
七 番 渡 辺 昭 夫	八 番 石 井 武 敏	
九 番 辻 田 実	一〇 番 渡 辺 軍治郎	
一 三 番 五十嵐 昇	一 四 番 伊 賀 多 朗	
一 五 番 和 田 一 郎	一 六 番 辻 井 謹 爾	
一 八 番 安 西 益 男	一 九 番 島 野 茂樹郎	
二 〇 番 君 塚 喜 三	二 一 番 鈴 木 市 藏	
二 二 番 田 村 源治郎	二 三 番 菊 井 敏 博	
二 四 番 西 村 真 次	二 五 番 安 沢 徳 順	
二 六 番 飯 田 義 男	二 七 番 望 月 照 正	
二 八 番 田 中 禄 郎	二 九 番 秋 山 六三郎	
三 十 番 遠 山 日 木 子		
一、欠席議員 二名		
一 一 番 山 本 昇	一 二 番 藤 田 益 治	
一、出席説明員		
市 長 本 間 讓	助 役 嶋 山 伝	
収 入 役 高 木 哲 三	秘 書 課 長 太 田 博 雄	
人 事 課 長 小 沢 正 治	企 画 課 長 伊 藤 幸 太 郎	
庶 務 課 長 小 倉 澄 男	財 政 課 長 長 谷 川 広 治	
養 老 係 長	養 老 係 長	
市民課長 佐 野 甲子郎	税 務 課 長 越 路 良 夫	

收納課長	横溝	功	商工課長	鈴木	力
農産課長	石井	謀	水産課長	谷貝	茂生
保健課長	綱島	憲治	衛生課長	館石	勘治
土木課長	飯田	治男	交通課長	山口	一
兼建築課長			市民センター館長	羽山	房雄
交通課主幹	岩田	実			
福祉事務所長	斉藤	武男	水道課長	大嶋	重義
教育課長	安田	豊作	兼衛生課主幹		
教育委員会			教育委員会	沙崎	政光
学校教育部長	小宮	義夫	庶務課長		
教育委員会			兼国体局課長	川上	賢爾
社会教育部長	佐野	哲男	選挙管理委員会書記長	高山	隆男
監査事務局長	榎本	繁	農業委員会事務局長	岩崎	一郎
一、出席事務局職員					
事務局長	高尾	豊	局長補佐	脇田	元始
書記	兵藤	恭一	書記	鈴木	哲
書記	渡辺	弘	書記	川上	義雄
書記	福田	英雄			

一、議事日程(第一号)
昭和四十八年十二月五日午前十時開議

- 日程第一 会議録署名議員の指名
- 日程第二 会期の決定
- 日程第三 発議案第五号 暴力追放に関する決議について
館山市立第二中学校防音改築第一期工事請負契約の締結について
- 日程第四 議案第六十七号 昭和四十七年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について
- 認定第一号

一内加

- 認定第二号 昭和四十七年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について
- 認定第三号 昭和四十七年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- 認定第四号 昭和四十七年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について
- 認定第五号 昭和四十七年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について
- 認定第六号 昭和四十七年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について
- 認定第七号 昭和四十七年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- 議案第六十八号 昭和四十八年十二月に支給する期末手当の特例に関する条例の制定について
- 議案第六十九号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第七十号 館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第七十一号 館山市教育長の諸給与及び勤務条件

等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

和四十八年第四回市議会定例会を開会いたします。

議長の報告

議案第七十二号

非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（吉田勇治郎君）

本定例会議案審査のため、地方自治法第二百一十一条の規定による出席要求に対し、お手もとに配付のとおり出席報告がございましたので御了承願います。

議案第七十三号

千葉県自治センターの設置に関する協議について

なお、監査委員より八月乃至十月実施の監査の結果が報告されております。それぞれお手もとに配付の印刷書により御了承願います。

議案第七十四号

館山市児童遊園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案の配付

議案第七十五号

昭和四十八年度館山市一般会計補正予算（第三号）

○議長（吉田勇治郎君）

議案を配付いたさせます。議案の配付漏れはございませんが、一配付漏れなしと認めます。

議案第七十六号

昭和四十八年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第一号）

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

議案第七十七号

昭和四十八年度館山市水道事業特別会計補正予算（第二号）

会議録署名議員の指名

議案第七十八号

昭和四十八年度館山市と畜場特別会計補正予算（第一号）

○議長（吉田勇治郎君）

日程第一、会議録署名議員の指名を行ないます。八番議員石井武敏君二五番議員安沢徳順君以上両君を指名いたします。

議案第七十九号

昭和四十八年度館山市休養施設特別会計補正予算（第一号）

会期の決定

議案第八十号

昭和四十八年度館山市ユースホステル特別会計補正予算（第一号）

○議長（吉田勇治郎君）

日程第二、会期の決定を行ないます。本定例会の会期につき、議会運営協議会の意見は、本十二月五日から十二月十九日までの十五日間ということであります。

開

会 午前十時四分開会

○議長（吉田勇治郎君）

本日の出席議員数二十六名、これより昭

おはかりいたします。会期を十五日間と定めますことに御異議

ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって会期は十二月五日から十二月十九日までの十五日間と決定いたしました。

提議理由の説明

○議長(吉田勇治郎君) この際本定例会招集につき市長のあいさつ並びに提案理由の説明を求めます。

(市長本間 譲君登壇)

○市長(本間 譲君) 議員の皆さま方には年末多忙のところ御出席をいただきましてまことにありがとうございます。これから提案理由につきまして御説明申し上げたいと存じます。

本日ここに第四回定例会市議会を招集し、当面する諸案件について御審議を願うことといたしました。

今回提出いたしました案件は、認定関係七件、一般議案八件、補正予算六件でございます。

以下概要について説明いたします。

まず、決算認定についてであります。これは昭和四十七年度の一般会計及び特別会計の決算を了したので、地方自治法の規定に基づき、監査委員の意見をつけて議会の認定に付するものであります。

次に一般議案としてまして館山市職員給与条例の一部改正であります。これは去る八月九日付の人事院勧告に基づく一般職員の給与改訂で本年四月一日から実施するものであります。

なお、これに伴いまして常勤三役及び教育長については来年一

月から、議員につきましては来年四月から報酬額を改訂しようとするもので、これらの関係条例の一部改正があります。

次に千葉県自治センター設置に関する協議についてであります。これは千葉県における市町村職員の共同研修、各種行政施策の調査、研究等について県下全市町村が共同処理するため地方自治法上の一部事務組合として千葉県自治センターを設置しようとするものでその規程について協議するものであります。

次に市立第二中学校防音改築第一期工事請負契約の締結についてであります。入札の結果一億三千五百五十万円で株式会社石井工務店と随意契約を締結しようとするものであります。

このほか十二月に支給する期末手当の特例に関する条例の制定及び布良児童遊園の完成に伴う関係条例の改正があります。

次に昭和四十八年度の補正予算関係でございます。一般会計につきましては、歳入歳出において一億二千六百五十四万四千円を追加するとともに、債務負担行為及び地方債の補正を行なおうとするものであります。

おもな内容といたしましては、歳出において給与改訂等に伴う人件費関係で八千五百三十七万九千円、総務費といたしまして安房郡市広域市町村間事務組合負担金として五百九十一万七千円、これは特別養護老人ホーム及びし尿処理場の用地取得関係経費並びに消防職員の給与改訂等に伴う経費分であります。民生費といたしまして青年館建設工事費八百三十四万五千円、老人医療費の追加分八百五十八万三千円、基準単価引上げに伴い児童措置委託料で六百五十九万八千円、生活扶助費で五百十万六千円、老人クラブ補助金で百二万三千円、衛生費としましてじん芥処理場の臨

時職員増等に伴う賃金三百三十八千円、土木費としまして去る十月二十八日の大雨による災害に伴う道路補修費二百万円がおもなものであります。

以上の財源といたしましては、国県支出金等の特定財源において三千八百八十万一千円、市税、地方交付税等の一般財源で八千七百七十四万三千円を計上いたしました。

なお、債務負担行為の補正として、館山市開発公社の事業資金にかかる損失補償の限度額の増額と地方債の補正があります。

このほか国保会計など五特別会計において給与改訂等に伴う人件費ほかの補正があります。

また、今会期中に十二月十七日をもって任期満了となります。固定資産評価審査委員会委員一名の選任について追加議案を予定しておりますので上程の上は是非とも賛同を賜われますようお願いいたします。

以上このたび提案いたしました案件の概要について説明いたしました。詳細につきましては関係課長から説明申し上げます。

よろしくご審議くださるようお願いいたします。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で市長のあいさつ並びに提案理由の説明を終ります。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、発議案第五号暴力追放に関する決議についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

発議案第五号 暴力追放に関する決議について

議 案 の 内 容 説 明

○議長（吉田勇治郎君） 提出者の御説明を求めます。御登壇願います。

（二四番議員西村真次君登壇）

○二四番（西村真次君） ただいま議題となりました暴力追放に関する決議案について、提案理由を御説明申し上げます。

最近、市内におきます暴力事件の発生によりまして、市民生活に非常な不安を与えましたことは周知のとおりでございます。

ことに健全な観光都市づくりを市政の重点施策としております当市にとつて、暴力事件の各方面に与える影響ははかりしれないものがあり、各種暴力の追放こそ住民福祉の根源として、その必要性は言をまつまでもありません。

新聞報道等によりますと、市民の間におきましても暴力追放気運が盛り上がりを見せているときでもありますし、さらには市当局におかれましても暴力追放市民運動を展開するとの意向も明らかにされておりますので、この際本市議会といたしまして、暴力追放に関する意思を表明することは極めて意義深いものがあり、市民の負託に応えるものと考えます。

市当局におかれましても、議会の意思を十分反映されまして、暴力追放の施策を樹立され、強力に推進されるよう要望いたしますとともに、議会といたしまして、その施策に対し積極的に協力いたしたいと考える次第でございます。

以上、申し述べました観点に立って、お手もとに配付のとおり

七名の賛成者を得まして本決議案を提出いたしました次第でございます。

なにとぞ満場の御賛同を賜われますようお願い申し上げます、提案理由の説明といたします。（拍手）

○議長（吉田勇治郎君） 本案に対する御質疑を求めます。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案については委員会付託並びに討論を省略し、直ちに採決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採決

○議長（吉田勇治郎君） 直ちに採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第四、議案第六十七号館山市立第二中学校防音改築第一期工事請負契約の締結についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

議案第六十七号 館山市立第二中学校防音改築第一期工事請負契約の締結について

議案の内容説明

○庶務課長（小倉澄男君） 議案第六十七号館山市立第二中学校の防音改築工事請負契約について説明いたします。

本年度八月二十日入札の予定で清水建設、大成建設、大林組、熊谷組、東急建設、戸田建設、東海興業、安藤建設、不動建設、旭建設、太平工業、江池組、石井工務店、計工務店、十四社を指名いたしました入札をする予定でしたが、工事資材等の急騰によりましてこれを延期いたしましたので、設計を変更いたしました結果、四十八年の十一月二十九日入札を実施したわけでございますが、その際再度入札、再々度入札いたしましたのが落札はいたしませんでした。しかしながら地方自治法の規定によりまして最低価格を提出いたしました株式会社石井工務店に見積もりを徴しましたところ予定価格に達しましたので、ここにございますとおり一億三千五百五十万円をもちまして石井工務店と随意契約をいたしましたということでございます。

なお、工事内容でございますが、面積は三千四百五十二・二四平米でございます。普通教室二十一、職員室三、図書室等の特別教室を含んでおります。これには二階建ての八教室の引屋工事も中に入っております。以上の工事が主な内容でございます。よろしく御審議のほどをお願い申し上げます。

質 疑 応 答

〇一〇番(渡辺軍治郎君) 入札が二回、三回とやられてなかなか落札しないために随意契約になったというところでございますが、資材の値上がり等を見込んでの結局設計変更というようなものがあつたと思うんですが、資材の値上がりが引き続くような情勢ですけれども、工期内にこの契約でもって間違いなくできるのかどうか。

それともう一つは、随意契約でかなり価格を落としていると思うんですが、そういう点で往々に手抜きということが資材の値上がりの反面で出てくる危険性もないことはないと思うんですが、これは白浜の中学校の問題ですが、雨漏りがするということで白浜では問題になっておりますので、そういう監督やなんかを十分にやられるのかどうか。そういうような点についてお伺いしたいと思ひます。

〇庶務課長(小倉澄男君) お答えいたします。

あくまでもそういうような資材の高騰並びに今後の社会情勢等を勘案いたしました価格による入札でございます。それを両者が合意に達しまして契約を結んだわけでございますから、その点は責任をもって工事施行者は施行していくと考えております。

以上。あとは建築課長のほうから。

〇建築課長(飯田治男君) 工事監督につきましては、私どものほうで監督を十分きびしくやって、できるだけ工期以内にあがらせるようにいたしたいと思ひます。

〇九番(辻田 実君) いまの質問でもって大まかな点はわかった

んですけれども、監督も十分しながら工期内にということでございますけれども。その点についてかなり弾力的な話し合いがあるのかどうか。その点についてお伺いしたいと思ひます。

と申しますのは、つい先だって、二、三日前だと思ひます。

白浜町等は青年館を建築するについて、全く資材、その他の問題でできないということ、県に予算を返上したということがはっきりしましたし、先般も千倉の全員協議会じゃ来年度の予算については新規の工事は請け負えないということで、予算を設けないということ、非常事態というものを発しているようでございます。

いまの経済状態の非常に困難に困窮している状況について、私が見るとかなり甘く市のほうは考えているんじゃないかという気がするんですけれども。というのは、一定の状態でございますれば、資材を運んでそのものである程度物価の上昇と見合つても、現在運んでくるトラックの燃料がないとか、そういうものでセメントを送つてこれがないとか、鉄材が送つてこれがないとか、そういうことで工事ができないということが非常に起きております。実際にきのうあたりのテレビを見ても野菜とかくだもの、そういうものを運ぶものがなくて産地に山積みになっていて、燃料がなくて運べないというそういう事態になって、石油事情が苦しくなっている中でこれだけの工事、かなり最初から無理のあつたものでありますけれども、その段階ではそういうものを見越してやっているのかどうか。私はこの工事がこのままいまの経済情勢が安定して、来年の、正式には六月になるわけですか、そこまでの工期内にできれば幸いだと思ひますけれども、いま契約してこれだけの三千四百五十二平米の鉄筋になるわけですが、こういう

工事がはたしてどうなのか。特に鉄筋ですからセメントを使うわけですが、私はある業者に聞いたんですけれども、工場にどこにもない、宇部興産なり、ああいうところでもってセメントを買いたいということでもって問屋がいくとセメントは出すけれどもそのかわりに油を持ってきてくれということまで言われたというのを私は市内のある大手セメント小売り業者の社長さんに聞いたわけですが、そういう状態の中ではたして石井工務店がセメントを、さらには材料、鉄筋ですね、確保されておれば問題はないんですけれども、それが見込みでいった場合に、こういう中においてどういう見通しをとっておるのか。

私は工期内にやらせなければならぬということはおわかっておりますけれども、実際にいまのところ大手の会社で再度、再々度契約しても請け負えないということについて、石井工務店に無理を言ってお願ひして、何とかやってくれということをお願いしたんじゃないかというふうに思われるわけなんです。その点についての状況をもう少しここでもって明らかにしてもらったほうがいいんじゃないか。私はあえてこのような工事を期間内にやることは危険なんじゃないかと思っております。途中で補正も組む、年度内に工事ができない、そういう問題を想定しても現在の経済情勢の中では当然あるんじゃないかというふうな感じもするんですが、そこらへんについての経過なり見通しについてはどうなのか。もちろん防衛庁の補助金工事ですから年度内にやらないということになれば、予算も計上できないということになるかもしれないけれども、そこらへんについての見通し、経過をひとつお願ひしたいと思います。

○庶務課長（小倉澄男君） お答えいたします。

石井工務店が先般落札いたしましたあとであいさつに見えただございますが、非常に献身的な努力で、これを引き受けてひとつわが社の誇り得る事業にいたしたいということを申しあげられましたし、このたび実際の見積もりを徴した額もいままでいろいろ経緯をしてございますが、その額がさほどいままで行ないました見積もり、いわゆる予定価格に予想した額というものがそんなに大きな額ではないということとで私自身ある程度これは安堵して防衛庁の見積もりがある程度の額を十分みているんじゃないかというふうな私考をもつて安心をした次第でございます。

資材等の入手につきましても、早速手配をいたしておるようでございます。鋼材等についてもすでに手配も済んだということも言っておられます。そのほかいろいろな資材、それからわれわれがわきから応援できるものについては市側としても極力応援してまいりたいというふうな相互の話し合いも十分いたしまして、議会の議決をいただきましたならばさっそく契約を実施して、一日も早く石井工務店に実質的な工事をするようにいたしたいと思っております。

なお、防衛庁等もこれにつきましては、委員会のほうからも聞いたわけですが、委員会としても相当の非常事態ということで防衛庁に対しておるといふような結果、石井工務店と随意契約を結ぼうということでもあります。

○九番（辻田 実君） 大体わかりましたけれども、あまりこの問題については無理のないようにやっていただきたい。

特に先般一中の前の踏み切りで事故を起こした事件等について

ても、聞いてみますとあれは富士ディーゼルで入手するところ

のエンジンの材料を九月末までに入荷するものが鉄鋼の値上がり
その他で遅れ遅れになってしまつて、異例な形でもって持ってきた
たということがあつた大惨事になってしまつて、富士ディーゼ
ルとしては二月も延びちゃつて着いてみたら大事故でもってばか
をやつてしまつて、あの契約そのものは来年の二月段階で納めな
ければならない材料でもって、それがなくて非常にピンチだとい
うこともあるわけです。どうにも会社も何回足を運んでもガソリ
ン等の関係で運べない事情が無理してやつたために特急とぶつか
つてふつとんじやうというようなことも聞いております。鉄材の
値上がりと石油経路、運送形態混乱というものはひどいものだとい
うことを、私も間接的にみて非常にたいへんなことだなという
ふうに感じておりますので、そこらへんについてはひとつ重々あ
れしてやつてもらいたいと思います。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑
なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案を委員会付託
並びに討論を省略して直ちに採決したいと思いますが、これに御
異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よつて本案は原
案どおり可決されました。

暫時休憩いたします。

午前十時四十分 休 憩

午後一時 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員二十名。休憩前に引き続
き会議を開きます。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第五、認定第一号乃至第七号、議案
第六十八号乃至第八十号を一括して議題といたします。

議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） この際おはかりいたします。ただいま議
題となりました各案件は、本日は内容説明のみといたしたいと思います。
これに御異議ございませんか。――御異議なしと認めま
す。よつて決しました。

おはかりいたします。各案件の朗読はこれを省略したいと思
います。これに御異議ございませんか。――御異議なしと認め
ます。

これより順次説明を求めます。まず決算認定は一号から七号ま
でを一括して行ないます。市長御登壇願います。

認定第一号 昭和四十七年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和四十七年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和四十七年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和四十七年度館山市と喜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和四十七年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和四十七年度館山市ユースホテル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和四十七年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について

(市長本問 議員登壇)

○市長(本問 議員) 決算につきまして提案理由を説明申し上げます。

ただいま上程いたしました認定第一号から第七号まで、昭和四十七年度一般会計並びに六特別会計歳入歳出決算につきまして地方自治法第二百三十三条第三項の規定により監査委員の意見を付して議会の承認を得ようとするものであります。

顧みますと、昭和四十七年度は、前年度同様物価の高騰と義務的経費の増嵩が著しく、また投資的事業面においては、学校等公共施設の建設、道路舗装等、行政需要の増大と財政事情は非常に苦しくなったのでありますが、広域行政の推進、不要不急の事務

の整理、各種補助金の整理統合など全般的な行政経費の節減合理化を進めるとともに、市税の確保、地方債の積極的な活用等歳入全般にわたって収入の確保をはかることにより、財源の重点的配分と経費の効率化につとめ、市財政の健全性を堅持しつつ住民負担の軽減と住民福祉の充実を積極的に推進してまいったわけであります。

予算執行にあたりましては、年度当初施政方針に述べましたように、教育、産業、観光の三本の柱のもとに積極的に行政を推進したのであります。

その主なものは、教育面におきましては、前年に引き続き幼稚園児に対する保育料の免除、学用品の無償交付、保育園児に対する教材費補助等を実施し、父兄負担の軽減、教育の機会均等、幼児教育の強化につとめるとともに教育界から大きな期待がかけられております放送センターの運営により教育内容の質的向上と能率的な教育効果の向上に努力したわけであります。

さらに、館山小防音校舎、豊房中屋内運動場、豊房幼稚園等の新築、二中防音校舎の設計委託並びに債務負担行為による船形小北条小、四中のプール建設費、房南中屋内運動場工事費及び図書館用建物の購入費の本年度分支払いなど教育施設の整備充実をはかり、また新しく学童災害共済制度を実施し児童生徒の福祉の増進につとめた次第であります。

産業面におきましては、農業関係で自立経営の育成と生産の向上をはかるため、基盤整備と近代設備の充実につとめるとともに米の生産調整の一環として、転換作物の普及及び集団転作に対する助成措置を実施したほか豊房育成牧場、用排水路、農道等の整

備を実施したわけであります。水産関係といたしましては、漁港の整備を重点的に行なうとともに沿岸漁業振興のための構造改善事業及びサザエ等の栽培事業の推進育成並びに水産加工等の集中管理を行なうため、共同加工資材倉庫建設に助成をはかったわけであります。商工関係といたしましては、商工会議所を通じて企業の振興助成をはかり、物産展等を通じて販路の拡充をはかるとともに資金融資による中小企業者の資金の円滑化をはかったわけであります。

観光面におきましては、観光館山のイメージアップをはかるため、観光キャラバン、ポスター等による宣伝を行ない、四季型観光へのPRをはかり、またフラワーライン沿道に花を植栽し、観光客の誘致宣伝につとめたわけであります。

福祉面におきましては、私が最も力を入れ、これまでに数々の施策を実施してきておりますが、さらに高齢者医療給付対象を七十歳までに引き下げたほか愛のベルの設置、乳児医療給付制度の実施、房南保育園の新設等福祉の向上につとめてまいりました。

このほか火葬場並びに常備消防業務の広域市町村圏組合への移行、市営住宅十六戸の建設、交通安全施設の整備、中央公園の整備、作名ダム調査委託、これは作名地区にダム設置が可能との結論に達し、水源確保が明るい見通しとなったわけであります。また三年目を迎えた市道舗装化は、舗装率で全国平均を大幅に上回る結果となるほど住民の福祉を増進し住みよい地域社会を建設するため努力してまいりました。

一方、財政の健全な運営をはかるため財源の確保に最善の努力を傾注し最小の経費で最大の効果をあげるよう努力してまいりました。

した。

幸いにも昭和四十七年度は当初計画にしたがっておおむね予算どおり執行することができ、一般会計において歳入合計二十五億四千百万余円、歳出合計二十五億三千四百百万余円、実質六百六十七万円を繰り越すことができ、さらに特別会計においては、独立採算を基本としてその運営の合理化、適正化につとめました結果六特別会計総計で三百七十七万七千余円の繰り越し決算を遂げることができました。これはひとえに市議会各位の御協力によるものと深く感謝いたしております。

以上、決算の概要につきまして説明申し上げましたが、主要の成果につきましては、決算審査意見書、決算に関する報告等により御了承をいただきたいと存じます。なにとぞ慎重なる御審議のほどをお願い申し上げます。提案理由の説明といたします。

議長（吉田勇治郎君） 次議案第六十八号乃至七十三号を説明を求めます。

議案第六十八号 昭和四十八年十二月に支給する期末手当の特例に関する条例の制定について

議案第六十九号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について

議案第七十号 館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第七十一号 館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の制定について

議案第七十二号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁

償に関する条例の一部を改正する条例の制定
について

議案第七十三号 千葉県自治センターの設置に関する協議につ
いて

(人事課長小沢正治君登壇)

○人事課長(小沢正治君) まず議案第六十八号昭和四十八年十二
月に支給する期末手当の特例に関する条例の制定について御説明
いたします。

総括的に申し上げます、今回十二月の期末手当を基本条例の
給付率に〇・六カ月分と一万五千円を加えて支給したいというも
のでございまして、二条が一般職員の期末手当の関係でございま
す。

御案内のように一般職につきましては、十二月一日現在で過去
六カ月間の勤務期間に応じて支給することになっております関係
上、この左側の表にございますように六カ月が一〇〇%、それか
ら五カ月以上六カ月未満の勤務期間に対しては八割、三カ月以上
五カ月未満の期間に対しては六割、三カ月未満の勤務期間に
対応します率が三割ということになっておるわけでございます。

したがって今回増額しようとする六割及び一万五千円の額
もこの基本割合によってそれぞれ減額される計算になるわけでござ
います。これに勤勉手当の〇・六カ月分がございまして、合
計いたしました三・二カ月プラス一万五千円という支給率になる
わけでございます。

これに準じまして第三条、四条、五条の関係は常勤三役及び教
育長、そして市議会の議員の期末手当の規定でございまして、そ

れぞれ一般職と同様に三・二カ月プラス一万五千円を支給しよう
とする特例でございまして。

簡単でございますが、議案第六十八号については以上で説明を
終ります。

次に第六十九号は一般職の給与条例の改正でございしますが、こ
れは本年八月九日に人事院の勧告がございまして、同月の二十六
日に国家公務員の給与法が改正になったわけでございます。これ
に基づきまして自治事務次官名をもって各都道府県知事、人事委
員会の委員長あて地方公務員給与制度の改正についてという通達
が出されております。千葉県におきまして人事委員会の委員長か
ら知事及び県議会議長あてに職員給与に関する報告並びに勧告
がなされたわけでございますけれども、これら等を踏まえて
十月九日付で千葉県の総務部長名をもって市町村長、あるいは一
部事務組合の管理者あてに地方公務員の給与制度の改正について、
これらに準じて改正するようという通知がまいってきておりま
す。

これに基づきまして本市の職員の給与を改訂しようとするもの
でございすけれども、その主なるものいたしましては給料表
の改訂と、それから扶養手当、住居手当、通勤手当、宿日直手当
という諸手当の増額改定が今回の本市関係における改訂の内容で
ございます。

次に逐条的に申し上げますと、最初の第七条の第三項中と申し
ますのが扶養手当でございまして、扶養手当の月額でございましてが
配偶者が二千四百円を三千五百円にというのが、これは配偶者の
手当でございまして、いずれも月額でございまして、八百円を千円に

というのが、十八歳未満の子のうち二人までの関係と、七十歳以上父母、祖父母、それから不具、廃疾者の関係でございます。それから千六百円を二千五百円に改めるというのが、このうちで配偶者のない職員の子のうちの一人従前千六百円であったものを二千五百円に改めるといふものであります。

次の第七条の三というのが住居手当の関係でございますが、これは従前は家賃と三千円との差額の二分の一を住居手当として支給する、限度額が三千円までということであつたわけでございます。この条文じゃちょっとわかりにくいわけでございますけれども、これを家賃が七千円以下の場合には、家賃の月額から四千円を控除した額を支給する。七千円をこえる家賃を払っている場合には、その月額から七千円を控除してその差額の二分の一を三千円に加えた額ということで、その払っている家賃と七千円の二分の一の額が二千円をこえる場合には二千円どまりということでございます。最高限度額が五千円に改まるということでございます。

次の第八条第二項というのが通勤手当でございますが、額の改定と若干語句の整理がございます。これを結果的に申し上げますと交通機関を利用する選賃がかかる場合の全額支給限度額が従前四千円であつたわけでございます。電車の定期、あるいはバスの定期が四千円までのものは四千円全額支給であつたわけでございます。四千円をこえるときにはその二分の一を二千円を限度として支給するということで、したがって最高支給限度額が六千円であつたわけでございます。これが全額支給限度額が五千円に改められました関係で全額支給の限度が従前の四千円が五千円になり、それからそれぞれその額をこえる関係のものについては最大支給

限度額が六千円が七千円に改正されるということでございます。それから自家用車等、自転車等といつておりますけれども、車通勤の場合には片道十キロ未満のものが千円が千五百円に改められますが、十キロ以上の千五百円が千八百円に改めるといふことでございます。それから条文上交通不便地といつておりますが、これは通勤のために、その通勤に間に合う時刻のバスが通っていないとか、距離が非常に長くて、交通の便が悪くて自家用車等を使用せざるを得ないというような関係のものでございますが、そういういわゆる交通不便地の場合千八百円一本であつたわけでございますが、これは原則的には十キロ以上の距離をいっているわけでございますけれども、これが今回十キロ以上十五キロ未満の場合には二千円、十五キロをこえる場合には二千五百円というふうに二本立てに改まるわけでございます。したがいまして従前もそうであつたんですが、交通機関を利用し、かつ自家用車を使用するといういわゆる併用の場合、この場合には両方をそれぞれのルールの上で計算しまして、最初に申し上げました全額支給と最大支給限度額のいわゆる交通機関利用の関係と同様に全額支給限度を四千円を五千円に改める、最高限度額が六千円が七千円に改まるというものでございます。

それから次の第十四条が宿日直手当関係でございます。現行六百二十五円を千円に改め、それから土曜日の午後から日曜日引き続くというふうな、いわゆる宿日直一回、日直半日が継続して勤務を要するという場合が九百五十円を千五百円に改めるといふものでございます。

次に別表第一及び第二を次のように改めると申しますのが、給

料表の改訂でございます。最初が行政職の給料表、次が教育職の給料表でございます。大体給料表の上におきまして一五・三%前後の平均の引き上げ率という形になります。そこでこの給料表の中で特に行政職の關係につきましては当市職員が具体的、實際として引き上げになる率は約一六%と計算されます。

次は附則でございますが、宿日直手当につきましては本年の九月一日から、その他の改正につきましては四十八年の四月一日にさかのぼって適用するといふものでございます。

それと今回の給料表の改訂によりまして上げ幅がかなりある關係上、号給の間引きが行なわれたというのが一つの特色でございます。したがっていまして附則の別表にございますように間引きの關係で、特定号給については簡単に申し上げます、いままで一号下がったというような形の人が三カ月前後の追いつかれてくる形、十二カ月差があつたのが九カ月差になっていくというような形が生じてまいります。その關係がこの附則別表でございます。この附則別表によつて三月三十一日現在におけるそれぞれのここに掲げております旧号給を受けた人たちの關係がここにあります新号級の移行の關係、そしてこの期間内にございますように左欄の期間にその号級を受けていた期間が達していない場合には次の昇給期まで暫定給料を支給していく、こういうようなことによりまして号給の間引きの調整が起きてくるわけです。その關係が附則三項、四項でありまして、五項がそういう形で調整いたしました次の昇給期の關係のさらに調整でございます。六号、七号はこのようかなり複雑な切りかえを要しますので、本年度四月一日以降現在までの間に新しく採用された者、あるいは昇格によつて等

級がかわつた者、それらの者に関する取り扱ひの規定であります。そこでもう一つの問題は、住居手当の計算の仕方が全くかわつてまいりました關係上、この改正によりましてもらえなくなる者、あるいは従前もらつていた額のほりが多いというような形のものが発生してまいるわけでございますが、その關係を九項で住居手当に關する経過措置といたしまして、そのような場合には昭和四十八年度末までは従前の規定によつて決定された住居手当をそのまま支給しようといふのが九項でございます。

そこで給与の、いままでに支払われた關係の給与は新しく改正されますこの條例に基づく内払いとみなすといふ規定が十項でございます。

さらにこれらの細部手続きにつきましては規則へ委任するといふのが十一項の規定でございます。

かいつまんだ簡単なことでございましたけれども、以上が大体の骨子でございますので、六十九号の説明をこれで終らしていただきます。

議案第七十号でございます。これはいわゆる常勤三役、市長、助役、収入役の給与の改定でございます。収入役十七万五千円を二十二万円に、助役の二十万五千円を二十五万円に、市長の二十三万五千円を三十万に改めまして、四十九年の一月一日から実施したいというのが第七十号でございます。

これにつきましては條例の規定に基づきまして、去る十一月の二十六日に館山市特別職報酬等審議會を開催いたしました。その結果会長の望月暉作さんからの諮問のこの額と実施の時期については妥当と認めるという答申をいただいております。

次に議案第七十一号でございますが、これは教育長の給料の改訂でございます。収入役と同様十七万五千円を二十二万円に改訂いたしまして、一月一日から施行いたしたいというものでございます。

次に議案第七十二号は市の議会議員の報酬の増額改正でございますが、議員につきましては七万円を十万円に、副議長八万円を十一万円に、議長の九万円を十三万円に引き上げまして、新年度四十九年の四月一日から適用いたしたいというものでございますが、これにつきましても常勤三役と同じ十一月二十六日の報酬審議会をしまして、一応改定の時期が四月一日ということでこの額と施行期日は妥当と認めるという答申を得てございます。

次に議案第七十三号でございますが、市長から説明がございましたけれども、経過といたしましては県の市長会並びに町村会の相当の研究期間をしまして、共同で県に対しまして市町村職員の研修機関及び実施機構の強化を要望したわけでございます。これに基づきまして知事が確かに必要であるという観点から、せっかくこれをつくるならばでき得る限り充実した整備をしまして、県と共同の施設をつくってお互いに活用しあっていくという措置が最も望ましいであろうという関係から、市町村で職員の研修機構に關します一部事務組合をつくりまして、その一部事務組合と県が提携して共同の施設をつくり、そして年次計画をもって最も有効適切に職員の研修を推進し、さらには特殊技術部門の人材センタ―的なものもつくり、特殊技術関係の活用を大いに發揮していくようなことにしたいという基本的な構想からこのような県下全市町村への協議となった次第でございます。

これに關しまして、一部事務組合設立につきましての規約を御審議いただくということでございます。

第一条といたしましては目的でございます。ここに掲げてございますように市町村職員の能力の開発、あるいは効率の活用、そして各種の行政施策の調査、研究や普及をはかつて、市町村行政の近代化に資することを目的としてこのような組合をつくっていきたいということでございまして、名称を千葉県自治センターということにいたしたいということが第二条でございます。

第三条が組織市町村を県下の全ての市町村をもって組織するということでございます。

第四条が一部事務組合で処理する事業の内容をうたっているわけでございますが、一号から六号まで一応現在の基本構想の中で分割した大分類で大体六つということでございます。位置は千葉市に置くということでございますが、現在決定をしております場所は、都町というところに知事公社があったと聞いておりますが、そこに約三千三百坪の県有地があるんで、その県有地を提供されるということになっております。これは県と共同で事業を進めます関係上、その土地の提供については現在のところ無償とすることが内定されております。

第二章が議会でございますが、議員の定数及び選挙の方法は、一応定数を十人といたしまして、関係市町村の長の中から市長が七名、町村長例から三名を選出して十人で構成する。

この議員の任期は当該市町村の長の任期によるというのが第七条でございます。

それで第八条は議会の議長及び任期でございますが、これは第

七条の議員の任期と同じにすることとさせていただきます。

次が一部事務組合の執行機関でございますが、まず管理者は関係市町村の長の中から自治センターの議会において選挙する。それでその者の任期でございますが、当該市町村の長としての任期による。収入役の任期は一応二年ということとございまして、ここに収入役の選任についての関係はございません。ということは自治法の原則に基づくということとさせていただきます。

十一條が職務代理の規定。十二條が吏員その他の職員でございますが、当面吏員その他の職員の関係は十名前後が計画されておりますが、第四条のこの実施いたします事業の進捗状況に応じまして職員数も相当ふえてくる可能性がございます。

十三條が監査委員の関係でございますして、定数を二人とするものでございます。

第四章が経費支弁の方法でございますけれども、十四條の一項にございますように関係市町村の負担金その他の収入をもってあるということとでございます。負担金の分賦については自治センターの条例で定めるといふことになっておりますが、現在基本的な考え方としては県ができる限りの財政援助をやっているといふことでございまして、当面この事業をやっていくための施設の経費が約六億一千萬ぐらいの構想で県と一部事務組合との共同研修センターを建設するといふ計画が進められておるわけでございます。

そのことによつて当面市町村にその建設費を一気に負担していくような財源措置はとらないようにしようといふ内定がされておるわけでございますが、それと申しますのは六億一千萬前後の建

築費の中で分担する割合を県六割、市町村が四割の負担しましてその四割の負担額をさらに市と町村に分けて考えますと、市が八割、町村側が二割という形になります。それをそれぞれの市町村の職員数割りで負担していくということとでございますが、一応県が当面市町村に負担をかけないという形で進んでおりますので、補助金、起債を差し引きました残りの額を県の市町村振興資金という融資ワクの中に入れて運用していくというふうな計算をしております。

したがいまして、四十九年度から五十年年度の二カ年計画で約六億前後の施設を建設してまいりますのに当面の負担額といふしましては建設費の分が約三十二万円程度でございます。運営費の関係が人件費を主体といたしまして約二十萬、そういう形が予定されております。

次が附則でございますが、一項で知事の許可のあった日から施行するというのが一部事務組合のルールでございますので、これを現在の計画では十二月中に千葉県下全市町村が議会の議決を経まして一月一日からスタートする計画でございます。

したがいまして二項で最初の議会で管理者及び副管理者が選挙されるまでの間は管理者の職務は県の市長会長の職にあるものが行ないまして、副管理者の職務は町村会長の職にある者が行なうようにしてスタートするというのが附則の第二項でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 次、議案第七十四号について説明を求めます。

議案第七十四号

館山市児童遊園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

(福祉事務所長齊藤武男君登壇)

〇福祉事務所長(齊藤武男君) 議案第七十四号につきまして御説明申し上げます。

本年予定されておりました布良の児童遊園地がこのほど完成いたしましたので、この児童遊園地の設置及び管理条例に加えたいというものでございます。設置場所は布良の一・二五番地先でございます。

なお、これによりまして十三カ所の児童遊園地が完成したというところでございます。以上でございます。

〇議長(吉田勇治郎君) 次、議案第七十五号について説明を求めます。

議案第七十五号 昭和四十八年度館山市一般会計補正予算(第

三号)

(財政課長長谷川広治君登壇)

〇(財政課長長谷川広治君) 議案第七十五号の一般会計補正予算について御説明を申し上げます。

今回の補正内容として歳入歳出予算、それから債務負担行為の補正関係、三つ目といたしまして地方債の補正、三件をその内容といたします。

歳入歳出予算につきましては、第一条にお示しをいたしましたとおり歳入歳出予算の総額に一億二千六百五十四万四千円をそれぞれ追加をいたしまして、予算規模総額三十億五千二百九十九万五千円というふうにいたしたいというものでございます。

今回の追加額の内容を申し上げますと、歳入関係におきまして更正をいたし、減額をいたします金額が百九十七万円でございま

す。純追加額が一億二千八百五十一万四千円ということに相なります。この財源関係でございますが、特定財源といたしまして三千八百八十万一千円、一般財源が八千七百七十四万三千円でございます。財源別を累計申し上げますと、一般財源が二十一億六千四十八万七千円、特定財源が八億九千二百五十万八千円ということに相なります。

歳出につきましては、人件費関係の給与関係が、給与明細書に掲載をいたしました額が七千七百六十五万三千円、これに伴います負担金、あるいは賃金等の増額分が千二百二十一万一千円、合わせまして八千八百八十六万四千円が人件費でございます。その他の経費といたしまして三千七百六十八万円を計上いたしてございます。

各款項の区分ごとの追加、あるいは補正の金額でございますが、二ページから七ページまで掲載をいたしてございますが、詳細につきましてはそれぞれ主管課長から事項別明細書により御説明申し上げます。

債務負担行為の補正関係を第二条に掲載してございますが、ページ数は八ページでございます。変更分といたしまして開発公社にいたしてございます債務補償関係、これの補正をお願いいたしてございます。事項、期間等は変わりございませんが、限度額のうち借入金総額現在まで十三億を今回十六億四千万円、三億四千万円増額の御決議をお願いいたしたく計上いたしてございます。

第三表が地方債の補正関係でございますが、今回消防施設の整備事業債として二百万円を増額をいたしまして九百万円の補正をお願いいたしてございます。これはそれぞれ主管課が折衝いたし

ました結果、現在七百万円の内定をいたしてございますが、交渉結果により九百万円が可能になったためのものでございます。

以上で概括を終りまして、事項別明細書によりそれぞれ主管課長から御説明いたします。

(人事課長小沢正治君登壇)

○人事課長(小沢正治君) 四二ページをお開きいただきしたいと思います。最初には人権費の総括について申し上げたいと思います。

四一ページ、四二ページの補正予算給与明細書でございます。それぞれ明細書の各款項目節にこまかく計上されております。追加、あるいは補正減額関係につきましてここへ総括しようと思われられておるわけでございますが、給料におきまして三千六百六十二万一千円、職員手当が、この最後の欄に内訳が掲げてございますが、この合計が三千九百九十二万三千円、合わせまして七千六百三十三万五千円の追加となるわけでございますが、これに伴いまして共済費が百三十一万八千円、報酬が統計関係におきまして二十万九千円に減額になっておりますので、トータルとして七千七百六十五万三千円という追加額になるわけでございますが、これによりまして報酬、給料、職員手当、共済費の合計が九億八千三百六十一万円となります。

これによりまして伸び関係が給料で当初予算に對しまして約七・四%、それから職員手当につきましては約一・三%弱、共済費で約二・三%強という伸び方でございまして、合計いたしますと約八・五%の伸び率となるわけでございます。人勤その他の関係で給与改訂を積極的に進めてまいりました数字からいきますとパーセントが低いように考えられますが、これは当初予算で御説明

申し上げましたように人事院勧告の上のせ分を約一〇%当初予算で折り込んでございました関係でございます。この結果現在正規職員五百五十五名の平均給料の月額が約八万九千七百円前後になる予定でございます。なお、これらのこまかい追加のそれぞれの手当の内容等につきましては、各節によって御了解いただきたいと思います。

このような改訂関係で一応四十八年度の決算見込みとして考えただけでございますけれども、最近におきます国鉄、その他のストライキ関係の收拾が行なわれました結果、場合によっては年度内に、あるいは年内にも新たな給与の増額が発生するかも知れないような情勢となつてまいっております。これはまたいずれ決定次第にその措置がとられることとなるかと思いますが、現在ここへ計上したのは現下の情勢におきます確定段階でのそれぞれの制度によりまして決算見込みというふうに考えております。

次に人事課関係のものといしましては、二〇ページの第二款総務費第一項総務管理費の中の一節負担金補助及び交付金の中で負担金六百七十六万七千三百一円、この内容といしましては総合事務組合負担金六百六十一万八千四百一円、これは退職手当を主体とする負担金でございます。現在館山市がこの部分で負担しております額は給料の千分の八十の額でございます。したがしまして今回の追加の関係でこの千分の八十の差額と、それからこの退職者の特別負担金措置がございまして、これが総合事務組合の条例に基づきます特別負担金の現在予定されております額が約三百五十八万程度でございます。それとの合計額でございます。その下の千葉県市町村職員互助会負担金は、これは当初予算が

審議される段階ではっきりしていなかったのがその後確定いたしました。職員一人千円という単価が千二百円に引き上げ改定されたための差額でございます。

それからその下の自治センター運営費負担金というのが、先ほど規約関係で申し上げました一月一日施行という形になりますので一応予定額といたしまして、これは事務局側通知のございました一、二、三の三カ月分の五万四千百円でございます。

その下の補助金の百一万二千百六十円、これは館山市職員の互助会の補助金でございますが、職員が給料の百分の一を積み立て市が同額助成するといふものでございますが、そのほかに職員の福利厚生費といたしまして年間それぞれ助成が予算の議決をいたしまして行なわれておるわけでございますが、今回その額が福利厚生委託補助といたしまして六十四万五千九百五十円という額を含んでおります。これは女子職員の事務服と一部男子職員の上着の給付計画のものでございます。

以上で人事課関係の説明を終らしていただきます。

(企画課長伊藤幸太郎君登壇)

○企画課長(伊藤幸太郎君) 同じく二〇ページでございますが、企画費につきまして申し上げます。

今回追加補正をお願いしてございますのが五百九十一万七千円の追加でございます。郡市広域市町村圏事務組合に対します負担金でございます。新たに今回特別養護老人ホームに対する負担金とし尿処理に対します負担金が新たにわたわけでございます。

この特別養護老人ホームについては用地の取得に関連いたします経費としまして五百万円の予定がなされたわけでございます。

それに対しまして本市に対します負担金が百六十四万三千円というところでございます。同じくし尿処理につきましても用地取得に関連いたします経費といたしまして六百万円が組合としての予定された額でございます。それに対しまして本市の負担分が二百二十五万三千円ということに相なったわけでございます。

次の火葬場の運営費でございますが、この点につきましては配分率の中だけの若干の数字の動きがございまして、三万三千円の追加ということでございます。

常備消防費といたしましては、今回人権費の給料改訂に要します費用として約四百八十万円が予定されたわけでございますが、それに対しまして本市負担分が百九十八万八千円という数字でございます。

以上合計いたしましたして五百九十九万四余の追加補正をお願いしたわけでございます。

(庶務課長小倉澄男君登壇)

○庶務課長(小倉澄男君) 二二ページをお開きいただきしたいと思います。統計調査費でございます。人件費を除きまして統計調査の費用といたしまして漁業センサス、住宅統計調査、工業統計調査、七つございますが、それぞれの統計調査の委託金が交付が決定いたしてまいりましたので、当初予算に計上いたしてあります額を補正いたしましたのでございまして、その人件費を除きまして総額で二万一千四計上いたしてございます。上げ下げいたしましたそれぞれその使途に沿いまして、ここに各節の説明に付記してありますとおりの補正をいたしました次第でございます。よろしくお願いいたします。

(福祉事務所長斉藤武男君登壇)

○福祉事務所長(斉藤武男君) 二四ページ三款民生費につきまして御説明申し上げます。

まず一目社会福祉総務費の關係の八節報償費二十四万円でございますが、本年度母子家庭児童の中学校入学にあたりまして、県の二分の一の補助事業で一人五千円が支給されることになったわけでございますが、市内在住四十八名分の予算化をお願いするものでございます。

次の老人福祉総務費關係の一九節負担金補助及び交付金百二万三千円でございますが、これは老人クラブの補助金でございますが、現在一クラブ年間二万五千円の補助基準になっておるわけでございますが、これが今回三万六千円に引き上げられたわけでございます。九十九クラブ、会員数が五千四百名。老人クラブ活動の積極的な推進をはかりたいということで追加をお願いするものでございます。

二目の老人医療費關係でございます。一一節需用費十三万六千円の印刷製本費でございます。これは老人医療費關係の請求書を格納いたしますホルダーの購入費でございます。四千枚を予定しておるわけでございます。

次の一二節の役務費二十五万六千円の減額でございますが、これは老人医療費の審査機関に対する手数料が当初見込みよりも実績では下回ることが推定できましたので、この減額補正をお願いするものでございます。

次の二〇節扶助費八百五十八万三千円でございますが、老人医療關係でございます。本年度国の制度、それから所得制限で国の

制度になりません市の制度のもの、それから六十歳以上の寝たきり老人分として当初予算で六千八百八十八千円を計上をお願いしたわけでございますが、これが十一月現在で件数にいたしまして一万八千四百四十五件、支給金額にいたしまして五千三百八十五万一千円の支出をみているわけでございます。この三月までの不足見込み額の追加をお願いするものでございます。

次の老人福祉センターの關係でございます。二六ページをお開きいただきたいと思ひます。一四節使用料及び賃借料でございます。十六万一千円でございますが、これは老人センターの団体利用の場合につきましては市のマイクロバス、その他民間のバスをもつて実施しておるわけでございますが、本年はバス料金の値上がりとセンターの利用の増加がございまして、このバス借上料が不足をみておりますので増額をお願いするものでございます。現在までの利用人員は一万三千五百名でございます。

次の児童福祉關係でございますが、八節報償費二十八万五千円でございます。これは児童手当の支給対象児が小学校に入学した場合にその祝金として一人三千円、全額県費補助の実施要綱で本年度から実施されたわけでございますが、市内在住の九十五名分を計上させていただいたわけでございます。

なお、先ほどの母子家庭の入学祝金等の重複は認められておらないわけでございます。

次の一五節の工事請負費でございますが、八百三十四万五千円青年館工事の關係でございます。当初予算で本年度長須賀の中央青年館、これは仮称でございますが、分といたしましてその建築費六百五十万円をお願いしたわけでございますが、建築材料費の

大幅な値上がり等によりまして不足三百三十万五千円の追加をお願いするものでございます。それと同時に新規に地元から諸願等の強い要望がございました船形の西地区の青年館分五百四万円を追加計上をお願いするものでございます。

一八節の備品購入費の十万円の減額でございますが、これは従来県の青年館の設備補助金交付要綱によりまして十万円相当の備品、これは県と市のそれぞれ半額負担であったわけでございますが、この設備費が青年館の工事費の中に含まれましたので、これを減額補正したいというものでございます。

一九節の負担金補助及び交付金の百八十三万七千円の減額でございますが、この内訳は青少年グループの活動促進事業費補助金四万円でございます。これは当初十団体の二万円の助成ということで計上したわけでございますが、さらに二団体の追加をお願いするものでございます。一団体ににつきましては二万円、県と市が助成をするものでございます。

なお、この関係につきましては、従来県の実綱で実施されておりました青少年グループ活動育成補助金要綱が廃止されたわけでございます。

次の教材費補助金百八十七万七千円の関係でございますが、これは保育園在園の四、五歳児に対します教材費交付要綱に基づいて実施してあるものでございますが、当初三百七十三名を見込んだわけでございますけれども、実際の実人員は二百六十二名でございましたので、この減額補正をお願いするものでございます。

次の児童措置費の關係の一三節委託料六百五十九万八千円でございますが、これは児童福祉法五十一條によって行なっておるも

のでございますが、この保育単価に含まれております人件費の關係が、今回の人事院の勧告によりまして一五・三八%のペースアップがございましたので、この追加をお願いするものであります。次の一一節需用費百三十万円でございます。これも保育材料の文具費が値上がり、基準アップがございまして、当初見込みよりもそれぞれ改定になったわけでございます。このために追加をお願いする次第でございます。文具費、それから賄材料費ともでございます。

次の一二節の役務費の關係は二万六千円、これは保育園關係の電信電話料の不足分でございます。

次の生活保護費關係でございます。二八ページを開きたいだきたいと思ひます。扶助費五百十六万六千円でございます。この内訳は生活扶助費、医療關係、それと法外援助の關係でございますけれども、この生活扶助費關係も本年実質的一九%程度のアップがあったわけでございます。標準家庭で申し上げますと四人家族で月四万三千三百九十八円となったわけでございます。また医療費關係におきましても三百二十名、大体平均三万円というところとなつておるわけでございます。それらのアップによるところの追加でございます。それから法外援助の關係の九万七千円でございますが、現在生活保護の中の付き添ひ料としまして認められておりますのが一日二千二十四円でございます。実際には三千六百三十円でございますが、この差額分を法外援助費といたしましてお願い申し上げたいというものでございます。

〇議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたします。

午後二時十五分 休 憩

午後二時三十分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（保健課長綱島憲治君登壇）

○保健課長（綱島憲治君） 続きまして二八ページ保健衛生費について御説明申し上げます。

一 一節需用費七万四千円でございますが、乳児医療を当初計画いたしました際は現物給付ということで発足いたしましたわけでございますけれども、やむなく現金給付という制度になったわけでございますが、したがってまいして通知文の印刷製本費でございます。

続いて二〇節の扶助費四百万円が減でございます。御案内のように社会保険の給付が五割から七割へ給付が拡大されました関係と、それから現金給付することによって年度区分がかわってまいりますので、四百万円程度減額しても執行には差しつかえないであらう、こういうことで四百万円の減額でございます。

続きまして予防費一節需用費九十四万の追加でございます。インフルエンザワクチン並びに日脳のワクチンの値上がりがありましたので、その値上がり分の差額でございますが九十四万円。

以上でございます。

（衛生課長館石勘治君登壇）

○衛生課長（館石勘治君） 二九ページをお開き願います。清掃費でございますが、二目のじん芥処理費のうち今度四百四十九万九千円の補正をお願いするわけでございます。その内容といたしまして賃金で三百十三万八千円でございますが、これは当初側溝清掃車を借り上げてやる予定を立てておりましたが、その後リース

に切りかえた関係でそれに携わる職員の賃金、それから賃金の中の割り増し賃金等を加算されましたこの額でお願いするわけでございます。

それから需用費の百三十五万九千円でございますが、内訳燃料費の六十八万四千円は収集車並びにじん芥側溝清掃車の燃料の不足分、それと料金値上げによるものであります。修繕料六十七万五千円は収集車、その他十四台の自動車の修繕料で、今後この程度の額が必要になると思われますのでこれをお願いしたわけでございます。

それから役務費の中の電話料でございますけれども、これは正木処理場の電話料にこの程度の不足を生じやしないかということをお願いしたわけでございます。

それからし尿処理費の中で百十万一千円の補正をお願いするわけでございます。内訳といたしましては賃金二十七万八千円、これは十月の末日よりし尿処理場のやり方を少しかえてみました、かえた方法としましては二十四時間勤務という形でまんべんなく処理水をとってこれを放流しよう、こういうふうに考えましたので、それに職員の不足が出ましたので職員補充のために臨時職員を補充したわけです。この費用は二十七万八千円でございます。

次に需用費でございます。消耗品の三万円、これは消毒の材料等が不足をきたしましたので、これを追加したわけでございます。燃料費はボイラ等のこれもやはり不足分及び燃料の値上げ分が十七万七千円の不足を生じやしないか、こういうことでお願いしたわけでございます。それから修繕料は備品等の修繕でございます。それから備品の中に脱水機の修理、それから放水ポンプの修

理等がございます。以上でございます。

(農産課長石井 謀君登壇)

○農産課長(石井 謀君) 三〇ページの三目農業振興費から御説明を申し上げます。

まず一九節の負担金の安房農業まつり五万円でございますが、県は農業経営の技術並びに意欲の向上をはかるために土と緑の祭典を実施いたしました。こうした気運を盛り上げるために各郡部においてもぜひこれを実施していただきたい、こういう県からの要請があったわけでございますが、そこで安房郡市農林業振興協議会というのがございますが、これは各市町村長並びに農業団体の長で結成されておるものでございますが、その主催によりまして農業まつりをきたる十九、二十日に館山市の市民センターを中心会場に進めておるわけでございますが、その負担金をお願いするわけでございます。

次に果樹経営集團育成事業補助金百三十六万円の減額を計上してございます。これは当初予算におきまして果樹の振興としましてピワ園に通ずる道路の舗装工事、それとミカン関係といたしましては選果、ワックス処理機等の購入費の千百六十万円に對しまして県と市五〇%に相当する額の五百八十万円を承認いただいたわけでございます。その後県におきまして予算の關係等の内容もありまして、このミカンの専門的な作業場がないということで、集荷所を合わせて機械を導入したらどうかというような指示をいただいたわけでございますが、ミカン組合と事業主体である農協といろいろ話し合いの結果、県がそういうふうに来年度作業所なり、集荷場なりの助成対象として認めてくれるなら一年間繰り延

べてもよろしいというような結論に相なったわけでございますので、ここに減額補正をお願いする次第でございます。

次に温室園芸自立農家育成事業利子補給金十二万一千七百五十円でございますが、これは四十七年度におきましてガラス温室を小原の農業者が建設したわけでございますが、この資金を農業資金から借り受けてございます。県の条例に基づきまして資金に對して利子補給補助が市を通じてあるわけでございますので、その額が今回決定いたしましたので追加をお願いする次第でございます。

次に四目の畜産業費の賃金の四十五万円でございますが、この四十五万円は臨時職員賃金でございますが、牧場の作業員を当初臨時で予定しておったわけでございますが、年度中途におきまして作業員として正職に任用がえをしたものでございまして、その差額を補正計上してございます。

次に一九節の負担金補助及び交付金の七十万円でございますが、酪農振興事業資金利子補給金でございますが、当初予算におきまして前年度の実績等勘案いたしました予算化したわけでございますが、前年度に比較して借入者の増と、合わせまして今年度は年度当初からの借入が非常にあったというようなことから、利子補給の不足を生じるということで追加をお願いする次第でございます。

次に五目の農地費でございますが、七節の賃金の四十二万円の追加、それから一三節の委託料の四十二万の減額でございますが、これは組みかえの予算を計上してございますが、この内容といたしましては神戸地区の布沼並びに上郷の地域の基盤整備を本年度実施するわけでございますが、この事業としまして県の農業開発

公社に委託する計画で進めております。その内容の予算の一部を、いろいろと事業を実施していく上におきまして現場の監督員が必要であるというような県からの指摘を受けまして、地元の役員さんをお願いして、監督補助員としてお願いする予算を組みかえ計上したわけでございますので、よろしくお願いしたいと思っております。

次に二項一目の林業部のうちの七節賃金一万四千円でございますが、これは保安林保護員として県より県の保安林を監督するといふようなことで委託を受けておるわけでございますが、これは賃金の割り増し分があったために追加をお願いする次第でございます。

次に一三節の委託料の十一万の減額並びに一五節の工事請負費の組みかえ予算でございますが、これは昨年の九月の十五日に那古小の裏山が林地崩壊いたしましたので、その災害復旧に要する経費でございますが、その十一万円については設計費として当初予算にお願いしたわけでございますが、農産課の職員によりまして設計しましたためにこの十一万円が不用を生じたわけでございますが、去る十月二十八日にその付近がまた集中豪雨のために災害を受けているわけでございます。その災害復旧費にこの十一万円を充当いたしたい、こういうようなものでございます。

(水産課長谷貝茂生君登壇)

水産課長(谷貝茂生君) 三ページ三項の水産業費の補正につきまして御説明申し上げます。

今回百三十一万円の増額補正をお願いしようとするものでございます。

給与を除きまして、まず一九節の負担金補助及び交付金の項でございますが、沿岸漁業構造改善事業補助金として今回四十四万八千円の増額をお願いするわけでございます。これは富崎地区の投石事業と西岬と船形地区のコンクリート投石の事業につきまして、当初総事業費でもって四百五十万予定しておりましたが、今回四百九十八万に四十八万の総事業費の増額が認められましたので、六分の五県、国からの補助がございまして、それに市が十分の一いままで上のせしておりましたので、今回県の補助の増額に対する分の十分の一の上のせを合わせまして四十四万八千円の増額をお願いするわけでございます。

次に節類共販促進事業補助金でございます。県が節類の共販促進を奨励しておるわけでございますが、取り扱いが年度当初では予定がつきませんので、いつも共販が行なわれた後に取り扱い総額に對しまして県が百分の一の助成をしておりますので市が百分の〇・五だけ上のせして今回お願いするわけでございますが、取り扱い高は二百六十五万でございます。その二百六十五万に對する百分の一が県、百分の〇・五が市の上のせでということとで三十一万六千五百円追加をお願いするわけでございます。

三ページの漁村青壮年研究グループ活動育成事業補助金でございますが、これは西岬地区のアウビの中間育成の研究と船形地区のカツオの一本釣りの漁法の研究ということで、研究グループをつくって活動をしておるわけでございますが、この事業に對しまして県で三分の一の助成がございまして、市が同額を助成しようとするものでございますが、今回総事業費の増額が認められましたので、その比率に應じまして二万二千円の増額をお願いする

わけでございます。

それから蓄養施設附帯事業の補助金でございますが、西岬漁協において四十七年度に一千四、五百万の金を投じまして淡水蓄養施設をつくったわけでございますが、作業員と給水施設がどうしても配管のほうをもう少しふやさなければならぬということになりましたので、作業員のプレハブの間と二間の部屋と給水施設をやるために、これは県のほうから補助がございませんので、五十万かかるということで半額程度市で助成したいということ二十五万お願いするわけでございます。

次に漁港管理費でございますが、工事請負費の、香の漁港の防波堤の補修工事が緊急を要しましたので、十四メートルにまたがりましての補修でございますが。これと伊戸漁港の配水路の工事でございますが、漁港の区域の近くまでは上から設備がされているんですが、漁港区域内を通過する部分がどうしても排水をしにくくならないということで、これを新たにお願いするわけでございます。

それから坂田漁協以下、栄の浦、川名、波左間漁港はそれぞれ当初予算で予定しておりましたが、県の補助の関係、あるいは漁法の変更の関係、護岸だけで上ばりはことしは必要なくなったといういろいろなそういった関係と、それぞれ入札の関係で減額された分がございますので、それぞれの港の実態に応じまして減額が見込まれる分だけをお願いしまして、合わせて差し引き九十三万の減額補正をお願いするわけでございます。

よろしくお願いいたします。

(土木課長 飯田治男君登壇)

土木課長(飯田治男君) 次に三三ページの土木費の道路橋梁費一五節の工事請負費二百万円追加補正について御説明申し上げます。

去る十月二十八日の集中豪雨によりまして決壊いたしました市道の路肩等の復旧工事の工事請負費でございます。よろしくお願いたします。

(交通課主幹 岩田 実君登壇)

交通課主幹(岩田 実君) 三四ページ下段の消防費について御説明申し上げます。

一目の非常備消防費でございますが、六十一万四千円の減額をお願いする次第でございます。

五節の災害補償費六千円でございますが、これは火災現場等における負傷されました消防団員等に対する公務災害補償費として給付したいものでございます。

それから八節の報償費ですが、本年の三月末に十五年以上勤続されました方が八名退職されました、この方々に対する退職報償金を条例に基づきまして支給したい、このように考えるものでございます。

それから九節の旅費八十万円の減額補正でございますが、御承知のようにおかげさまで本年の四月以降非常に火災が少のうございまして、発生いたしましたもほとんどボヤ程度でございます。二十三件程度ございましたが、その損害は約四十万程度でございます。非常に消防団員等の出勤もしたがしまして少なかったわけでございます。執行上この程度の減額はお願いしても差しつかえないということで、ここにお願する次第でございます。

それから一八節の備品購入費二十万円の減額でございますが、本年二十四部、二十五部、これは専房の畑と館野の稲の消防でございますが、従来可搬動力ポンプを使用しておったわけでございますが、これに積載車を購入いたしたわけでございまして、このソフト吸管という一本の吸管をそれぞれ四本ほど購入を予定しておりますわけでございますが、積載車の構造上やはり従来の棒吸管のほうが火災現場等における活動上いいということで、この購入を見合わせたものが主なものでございまして、その他の備品購入関係で安く購入したということでここに二十万の減額をお願いした次第でございます。

それから二目の消防施設費でございますが、七十八万七千円の補正をお願いする次第でございます。

一五節の工事請負費でございますが、本年四部、九部、これは那古と長須賀の詰所、車庫をそれぞれ新築するために当初予算で三百六十万円を計上させていただいたわけでございますが、御承知のように資材の高騰、その他によりましてここに百五万円の増額補正をお願いする次第でございます。

一八節備品購入費二十六万三千円の減額でございますが、安房郡市の消防本部で基地局の無線が電波法の改正によりまして超短波をこしから無線機を使用しておるわけでございまして、これに伴いまして館山市内の消防団の各消防車、部長以上の幹部のお宅に設置いたしてございますこの無線の傍受機が新しい超短波の電波を使えるような傍受機にしくちやいけないわけでございまして、七十二台を購入いたした次第でございますが、この単価が安く購入できました為にここに二十六万三千円の減額をお願いす

る次第でございます。

よろしくお願いいたします。

(教育委員会庶務課長 汐崎政光君登壇)

〇教育委員会庶務課長(汐崎政光君) 三五ページの一〇款教育費について御説明申し上げます。

人件費関係を除きまして、一一節の需用費で十五万六千円の追加補正をお願いしてございますが、これは来年度就学します子供たちの就学通知書、健康診断書、学齢カード等を電算機に入れまして能率的な処理をしたいと考えまして、それにあたりまして必要となる用紙代、印刷代等をここに追加計上した次第でございます。

それから一九節の県立養護学校誘致期成会負担金五万円でございますが、安房地方教育委員会連絡協議会が中心となりまして、県立の養護学校を安房地区へ誘致する働きを現在やっているわけでございますが、それに要します諸経費を安房郡の各市町村が分担して出す。このような申し合わせがありまして、その館山市の負担分として計上した次第でございます。

それから三目の放送センター費におきまして、一一節の需用費で二万二千円の減額をいたしました。これは一二節の役務費の補正財源としてお願いするものでございます。

一二節の役務費の電信料、これは年度末までこの程度の不足が見込まれましたのでここをお願いした次第でございます。

自動車損害共済基金分担金の五千八百円、これは去る九月長須賀の豊崎藤吉さんから放送中継車の寄付がございました、その車に関係します保険料でございます。

続きまして三十六ページの一八節備品購入費につきましては、

国から五十万円、県から二十五万円、それぞれ今回地域視聴覚ライブラリーの整備費として補助の追加が決定されてまいりましたので、これを財源として補助金の対象となります教具、教材を購入しまして、放送センターの充実を期そうとするものでございますが、合わせまして七十五万円ここに計上させていただきます。

それから二項の小学校費におきまして一二節の役務費に四万四千円の追加計上をお願いしていますが、これは小学校で使用しております農協の有線電話、これは今まで無料で使わしていただいていたわけですが、今回一般家庭並みの月四百円の維持費を支払ってほしい、そのような要望がございましたので九校分計上させていただきます。

三項の中学校費の十二節役務費の二万九千円、これも小学校と同様市内の六中学校の有線電話料でございます。

三七ページの四項幼稚園費の七節賃金でございますが、これは今年度産休職員が当初予定よりも多くございまして、その代かえ職員の賃金が不足しておりますので、その不足予想額をここに計上させていただきます。

一二節の役務費は、市内の四幼稚園の有線電話の使用料としてここに計上させていただきます。

それから一九節の負担金補助及び交付金におきます二十六万円の追加補正は、私立の白百合幼稚園へ就園しております者たちへの助成金の追加でございますが、当初予算で一応十一万円計上しておいたわけですが、年度に入りまして通園者の父兄の所得調査をしましたところ対象人員が当初予定より多くなりまし

て、それからまた国の助成単価が引き上げられましたことによりまして、これだけの不足が生ずることが明らかとなりましたのでここに追加補正をお願いした次第でございます。

なお、ただいま市内から白百合幼稚園に通っております子供たちは総体八十名でございますが、そのうちこの助成の対象となりましたものは三十一名でございます。

続きまして社会教育費について御説明申し上げます。三八ページの二目の公民館費におきまして一二節の役務費で二万四千円追加計上をお願いしていますが、これは公民館の五つの分館の有線電話料でございます。

それから一九節の負担金補助及び交付金で五万円の追加計上をしてございますが、これは市の農協が市内の全支店に対して防犯防災警報器を取り付けることになりまして、公民館の館野分館が農協の支店と同居しております関係で経費の一部負担を要請してまいりましたので、その負担分をここに計上させていただきます。

以上よろしくお願いいたします。

(財政課長長谷川広治君登壇)

○財政課長(長谷川広治君) 以上で歳出について概略でございますが説明を終了いたします。

歳出総額が一億二千六百五十四万四千円でございます。

続きまして四三ページを開きいただきたいと思えます。四三ページの下欄に事項別明細書だけの補正でございますが、債務負担関係の調書を添付してございます。このうちの年割り額の補正をいたしてございます。道路改良関係の年割り額でございますが、

その工事費につきまして一億七千四百七十万円を予定をいたしましたわけでございます。したがって四十八年度予算につきましてには均等割りの五分の一の額三千四百九十万円を歳出予算に計上いたしました、年割り額は一応その範囲内であります三千二百八十万ということで予定をいたしましたわけでございます。実際の執行済み額が一億六千六百五十四万八千円ということが年度末に判明をいたしましたために四十七年度の支払い額で調整をいたしまして他の年割り額を歳出予算と同じ三千四百九十万円に補正をいたしてございます。

歳入の説明に移ります。一二ページでございます。今回の歳入関係につきましては市税におきまして総額三千四十九万六千円を計上いたしてございます。

四種目の税目でございますが、そのうち固定資産税の現年度分に対しまして千七百十九万七千円を計上いたしてございます。固定資産税につきましてはほぼ調定を終了いたしましたとは残余のものでございまして、現在までの調定額が三億五千二百九十六万六千円でございますので、これに四十七年度の徴収率を援用いたしました、九九%ということで残額を計上いたしましたわけでございます。固定資産税の現年度分の実収入額が総計で三億四千九百二十三万八千円を予定をいたしてございます。

次が五項の電気ガス税でございますが、今回六十八万円を追加いたしました四千七百九十三万四千円ということにいたしてございます。電気ガス税につきましては冬の電気料の上がる時期を迎えておりませんが、現在までの徴収率が一〇九・一五%ということで伸張をみておりますので、今回この率をかけまして六十八

万円を財源として計上いたしてございます。

八項の都市計画税におきまして今回二百六十一万九千円を追加いたしてございます。都市計画税につきましてもなおよそ調定が終了してあるわけでございますが、現在の調定額が八百八十二万五千円でございますので、これも昨年度の収納率を援用いたしました九九%ということで補正をいたし、今回財源として二百六十一万九千円を計上いたしてございます。

九項に今回新たに特別土地保有税ということで計上いたしてございます。一千万ということで予定をいたしてございますが、これは御案内のように税法改正に基づきまして本年十月からこのような税が創設されたわけでございます。この税につきましては二月一ぱいが申告かつ納付期間と相なっておりまして、その時期でなければ確定数値は押さえられませんが、現在予定をされております。あるいはなおよそ内定をいたしておりますもの、そういうものを考え合わせまして今回一千万計上をいたしてございます。

以上が市税でございます。

次が四款の自動車取得税交付金として百三十九万三千円、五款の国有提供施設等所在市町村助成交付金として百八十三万円、それぞれ計上いたしてございますが、この二款の追加額につきましては現在内定通知がまいっておりまして、総額の程度に相なるものでございます。

次が六款の地方交付税でございますが、今回二千二百九十五万を追加いたしまして交付税総額を六億九千三百四十五万というふうに予定をいたしてございます。今回追加をいたします内訳は普通交付税として千八百二十六万七千円、特別交付税分として四百

六十八万三千円でございます。普通交付税につきましては八月の算定時におきまして六億一千九百七十四万四千円というふうに仮算定がなされておりますが、現在国会におきまして交付税関係を含めました補正予算が提出をされておまして、二月末ごろに最後の算定が行なわれる模様でございます。今回の国の補正予算等の数字から考えまして普通交付税を六億五千二百七十六万七千円というふうに予定をいたしまして、当初予算との差を計上いたしてございます。特別交付税におきましては当初三千六百万を予定をいたしてございますが、過日の災害関係等もからみ合わせまして、また昨年度の実績が三千八百九十一万五千円ということでございますので、今回特別交付税分の追加として四百六十八万三千円を追加いたしまして特別交付税総額で四千六十八万三千円を予定いたしましたわけでございます。

次が八款の分担金でございます。児童福祉施設の負担金として三百六十七万七千円を計上いたしてございますが、これは先ほど歳出で御説明申し上げましたが、それに対応する数値でございます。

次が九款の使用料及び手数料といたしまして二百十四万を計上いたしてございます。使用料におきまして総額九十四万、手数料におきまして百二十万でございますが、手数料のうちの総務手数料として計上いたしました七十万円は、本年七月から戸籍関係手数料の政令改定による値上げ分と自然増を含めました総額七十万でございます。他のそれぞれの使用料、手数料につきましては自然増の分でございます。

一四ページの一〇款の国庫支出金におきまして今回二千六十一

万八千円を計上いたしました。一一款の県支出金におきまして八百九十一万二千円、合わせまして二千九百五十三万円はそれぞれ歳出に対応いたしました。それぞれ通知、あるいは規定に基づきまして積算いたしましたものを各節の区分ごとに計上をいたしてございますので、説明は省略をいたしますので御了承を承りたいと存じます。

一七ページの下欄一三款の寄付金で今回六百三十八万七千円を計上いたしました。これは青年館関係の地元寄付金六百五十四万五千円、水産関係の漁港関係の工事の減額に伴う寄付の減額十五万八千円を差し引きまして今回計上をいたしました。

次が一六款の諸収入でございますが、総額二千六百十四万一千円を計上いたしてございます。諸収入といたしましては一八ページにございます競輪収入二千三百万が大きな計上額でございます。競輪関係につきましては現在一億四千二百万を計上いたしてございますが、すでに現在まで一億三千三百六十六万二千円が収入ということに相なっております。あと三回競輪が実施されますので今回の伸び率等を勘案いたしまして総額一億六千五百万というふうに押さえまして差額の二千三百万を今回財源として計上いたしてございます。

その他雑入といたしまして生活保護費の県費負担分の過年度分これは年度を終了いたしました時点で精算をし、翌年県が交付をするということとで一年遅れになるわけでございますが、その差額が百六十八万七千円、雑入といたしまして百四十五万四千円をそれぞれ節で記載をいたしました内容により計上をいたしてございます。

一七款の市債といたしまして、地方債の補正額で御説明申し上げましたが、二百万を追加いたしました市債総額一億三千五百万というふうに予定をいたしてございます。

以上で歳入を概略でございまして説明を終わります。それぞれ歳入歳出とも一億二千六百五十四万四千円ということに相なりま

す。
議長（吉田勇治郎君） 次議案第七十六号について説明を求め

す。
議案第七十六号 昭和四十八年度館山市国民健康保険特別会計

補正予算（第一号）

（保健課長綱島憲治君登壇）

〇保健課長（綱島憲治君） 四十五ページをお開きいただきたく

思います。
国民健康保険特別会計補正予算第一号でございます。今回九十七万一千円を歳入歳出追加いたしまして、歳入歳出それぞれ五億七千三百四十五万九千円とする計画でございます。

続きまして四十八ページをお開きいただきたく思います。ま

ず歳出より申し上げます。
総務費におきまして今回百三十三万八千円をお願いするわけで

ございますが、これは人勧によります給料、職員手当、共済費等

でございます。
次の保険給付費におきますのは財源移動による更正でございます

す。
するということと退職をみております。今回の人勧によります財

源として補正をさしていただくということでございます。
五款の諸支出金におきまして九十万六千円を追加お願いしてい

るわけでございますが、これは四十七年度の療養費の国庫支出金

が実績より多くておるということで返納をするということに相

なつたわけでございます。その金額が九十万六千円でございます。
歳出におきまして更正をいたし、歳入におきまして高齢者医療給

付改善事業補助金として九十万一千円が経費補助確定をいたして

おります。七十一万八千円を今回補正として計上させていただきます。

それから一〇款の繰越金で二十五万三千円計上させていただきます

しました。
歳入歳出それぞれ九十七万一千円を追加いたしまして、歳入歳

出それぞれ五億七千三百四十五万九千円ということに相なります。
〇議長（吉田勇治郎君） 次議案第七十七号について説明を求め

す。
議案第七十七号 昭和四十八年度館山市水道事業特別会計補正

予算（第二号）

（水道課長大嶋重義君登壇）

〇水道課長（大嶋重義君） 五一ページをお開きいただきたくと思

います。
議案第七十七号館山市水道事業特別会計補正予算第二号につい

て御説明申し上げます。
今回補正の主な内容でございますが、四件ございまして、第一

益的収入及び支出の補正が一件ございます。それから第三点といまして資本的収入及び支出の補正がでございます。第四点といまして議会の議決を経なければ流用できない経費の補正がでございます。以上の四点でございます。

それでは業務の予定量の補正でございますが、第二条にうたっておりますが、この中で主な建設改良事業について補正するものでございます。水道拡張事業の事業費でございますが、今回五百十二万六千円を追加補正いたしまして合計で一億一千九百八十六万九千円にしようとするものでございます。

それから次の収益的収入及び支出の補正でございますが、収入といしまして、収入の面におきまして第一款の水道事業収益におきまして補正額二百四十七千円でございますが、四千二百四十一万四千円にしようとするものでございます。この関係します項目は営業収益でございますが、ここに示してあるとおりでございます。

次に支出面を申し上げますと、第一款で水道事業費用といまして補正額三百九十五万六千円でございますが、合計五千九百八十八万一千円にしようとするものでございます。この関係します項目は営業費用でございますがこれらに掲げた金額のとおりでございます。

次に第三点の資本的収入及び支出の補正でございますが、まず収入の面におきまして第一款の資本的収入でございますが、今回六百十万六千円補正をお願いしまして、合計で一億四千七百五十一万四千円にしようとするものでございます。この関係項目は国庫補助金でございますが、ここに掲げてある額でございます。

それから支出の面でございますが、第一款の資本的支出といまして今回六百十万六千円、合計で一億四千七百五十一万四千円にしようとするものでございます。この関係する項目は建設改良費でございますが、ここに掲げたとおりでございます。

次に第四点の議会の議決を経なければ流用することのできない経費でございますが、これは今回この職員の給与費支出について補正するものでございますが、補正額は四百三十六万八千円でございます。これを合わせまして三千九百六十九万一千円にしようとするものでございます。

それではこれらの内容について詳細に御説明申し上げます。

五七ページをお開き願いたいと思います。給与費の明細から御説明申し上げたいと思います。水道企業会計におきましては収益的支出と資本的支出の両面にまたがって給与改訂を中心として給与の補正をいたすものでございますが、その内容をここに掲げたものでございます。

給与改訂は市の改訂に準じまして行なおうとするものでございます。水道会計におきましては損益勘定と資金勘定の両面に振り分けてあるわけでございますが、損益勘定におきましては職員は十三人、それから資本勘定の支払い職員が七人で計二十人でございます。内訳はここに書いてあるとおりでございます。そうしまして今回の補正の合計額は四百三十六万八千円、これは補正前の額に合わせますと三千九百六十九万一千円に相なるわけでございます。なお、この金額は先ほど申し上げました補正予算の第五条に掲げました職員給与費の支出の予定額とこれは一致するものでございます。

手当の内容につきましてはここに掲げたとおりでございますので御了解いただきたいと思ひます。

次にこれらの収入支出につきまして見積り基礎から御説明申し上げたいと思ひます。

五九ページをお開き願ひたいと思ひます。収益的収入支出中の支出の面から御説明申し上げます。以下人件費につきましては省略いたしまして、それ以外のものについて御説明申し上げます。

原水及び浄水費の中で賃借料六万円の補正でございますが、これはゼロックスの使用料でございますが、このゼロックスの使用料を当初予算に組んでございましてしたので、今回これをお願いするわけでございます。一枚十五円のもの四百枚分ということでございます。

次は配水及び給水費の中で修繕費で百十四万九千円の補正でございます。これは量水器取替費でございます。量水器の取替につきましては当初予算編成の際におきまして資本的支出の建設改良費の中に計上したものでございますが、企業会計を実施しましたのちにこの量水器のような取替資産につきましては収益的支出の配水及び給水費の中に計上して処理すべきであるということがわかりましたので、今回この予算の組みかえを行なうものでございます。

なお、この組みかえ分は八十二万円でございますが、これに不足のもの三十二万九千円を合わせまして百十四万九千円の補正をいたしたいと願ひます。

次に五八ページ収益的収入について御説明申し上げます。

営業収益の中で上水道関係の給水収益でございますが、これは

六十六万円でございます。

それから簡易水道の水道料等についての収益は百三十八万七千円でございまして、当初見込んだものよりも水道使用料の伸びがございましたので、この程度それぞれ説明欄に書いてあります各節ごとに増が見込めるということで計上したわけでございます。

次に六二ページ資本的支出のほうから御説明申し上げます。

建設改良費の中で水道拡張費の委託料としまして五百十二万六千円の補正でございます。この補正でございますが、作名ダムでございすけれども、当初は貯水量としまして約三十八万程度のものを予定しておったわけでございます。そして前に行なつた基本調査におきましてこれをかさ上げすればさらに大きなダムの建設が可能であるということの結果が出ましたので、この際将来のことを考慮しまして大きなものにして考えていきたいということで、この目的のためにさらに地質の追加調査と、それからダム工事の実施設設計の費用の不足分合わせまして五百十二万六千円を今回計上するものでございます。

それから五目に量水器の八十二万の減額でございますが、これは先ほど御説明申し上げました収益的支出への組みかえでございますので、八十二万円の減額ということでございます。

六一ページ資本的収入でございますが、国庫補助金で六百十万六千円の補正でございます。これは防衛庁関係の補助金がこの程度なお見込めるといふ目安がつきましたので一応追加補正するものでございます。

以上で収入支出の説明を終りまして、五四ページへもどつて、ここに実施計画が収益的収入及び支出と資本的収入及び支出に分

けて計上いたしてございます。これは水道企業会計におきましては予算では款項だけのものしか予算書に載りませんので、さらにそれを細目に分けてこのように実施するというのがここに掲げた計画でございます。

それから五六ページに補正予算の資金計画を掲示いたしたものでございます。受入資金といたしまして今回の補正が八百十五万三千円であります。二億九百八十二万四千円、それから支払資金といたしまして補正が九百六万二千円で合計二億九百七十三万三千円でございます。差し引きまして九万一千円というこのような資金繰りに相なるわけでございます。

以上で説明を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 議案第七十八号について説明を求めます。

議案第七十八号 昭和四十八年度館山市と畜場特別会計補正予

算（第一号）

（衛生課長 館石勘治君登壇）

○衛生課長（館石勘治君） 議案第七十八号について御説明申し上げます。

六五ページをお開き願います。給料関係は別にいたしまして、第七節の賃金二十一万五千円の減でございますが、これは豚のと殺数が非常に減少してまいりましたので、それに伴ってと夫賃金がこの程度減額になるということで減額したわけでございます。

次に予備費五千円を減額いたしましたして職員給料に充当する、このように願います。

以上でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 議案第七十九号乃至八十号御説明願います。

す。

議案第七十九号 昭和四十八年度館山市休養施設特別会計補正

予算（第一号）

議案第八十号 昭和四十八年度館山市ユースホステル特別会

計補正予算（第一号）

（商工観光課長 鈴木 力君登壇）

○商工観光課長（鈴木 力君） 六十七ページをお開き願います。

休養施設特別会計補正予算につきまして御説明申し上げます。今回歳入歳出ともそれぞれ九十一万二千円を追加いたしまして、歳入歳出の合計額をそれぞれ四千八百三十二万四千円としようにするものでございます。

歳出から御説明申し上げます。七十ページをお開き願います。今回一目の一般管理費の給与関係費以外につきましては、二目の経営費におきまして二十五万円を追加してございますが、これにつきましては鳩山荘の建物等修繕料でございます。食堂とふろ場の屋根の塗装がえということ二十五万円を計上したわけでございます。

歳入でございますが、今回歳入財源といたしまして前年度繰越金九十一万二千円を追加補正をお願いしたわけでございます。

続きまして議案第八十号につきまして御説明申し上げます。ユースホステル特別会計補正予算でございますが、今回歳入歳出予算総額にそれぞれ百二十五万円を追加いたしまして、それぞれ合計額を八百七十三万四千円とするものでございます。

歳出から御説明申し上げます。七七ページでございます。二目の営業費でございますが、九十万六千円を追加してございますが、

その内容でございます。一二節の役務費一万三千円、なお二四節の投資及び出資金におきまして八万円を計上してございますが、これは電燈増設のための費用でございます、いままでフロントに一台の電話機があったわけでございますが、今回増設いたしました客用、それから厨房にも一台備えつけたいということで、その工事費、あるいは電話債権出資金としてお願いしたわけでございます。

それから一五節の工事請負費五万円につきましては、厨房の換気扇の取りかえ工事のための費用といたしましてお願いしたわけでございます。

それから一八節の備品購入費につきましては業務用器具購入費としてマットレス、電気洗たく機一台、それから毛布百枚、それから防災用カーテン三十枚、これを新たに購入しようとするものでございます。

それから歳入でございますが、歳入財源といたしましては二款におきまして前年度繰越金を百十七万一千円を今回いたしたわけでございます。

そのほか三款諸収入におきまして電信電話債券売却代金といったしまして、雑入で七万九千円を追加いたしましたわけでございます。以上簡単でございますが、説明を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で各議案の説明を終わります。

休 会

○議長（吉田勇治郎君） 議案審査のため明十二月六日は休会いたしたいと思ひます。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって明十二月六日は休会することに決しました。

延 会 午後三時四十分延会

○議長（吉田勇治郎君） 本日の会議はこれにて延会いたしたいと思ひます。これに御異議ございませんか。

（「資料の提出を求めたいんですが。」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 要望がありますので、暫時休憩いたします。

午後三時二十九分 休 憩
午後三時三十九分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思ひます。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

次会は十二月七日午前十時開会といたします。その議事は通告による行政一般質問を行ないます。

○本日の会議に付した事件

一、会議録署名議員の指名

一、会期の決定

一、発議案第五号

一、議案第六十七号

一、認定第一号乃至認定第七号、議案第六十八号乃至議案第八十号

一、休会

